

## 令和3年度 第2回 亀山市立図書館運営委員会 会議録

日時 令和4年3月30日(水)午後1時30分開会

場所 亀山青少年研修センター 2階 研修室1

出席者  
図書館運営委員長 櫻井 賢哉  
図書館運営委員 渡部 朱美  
図書館運営委員 田中 愛子  
図書館運営委員 川口 恭子  
図書館運営委員 中川 清裕

事務局  
亀山市教育委員会  
参事兼生涯学習課長 桜井 伸仁  
図書館 館長 井上 香代子  
図書館 副参事 小坂 博文  
図書館 主幹 服部 由美

### ■開会

【事務局】 第2回亀山市立図書館運営委員会を開催。配布資料の確認を行う。

#### 1. あいさつ

【参事】 参事あいさつ

【会長】 会長あいさつ

#### 2. 報告事項

##### (1) 新図書館整備事業の進捗状況について

【事務局】 事務局より報告

建築工事の進捗状況について報告させていただく。新図書館は令和4年10月21日の引き渡しを目指して順調に工事が進められており、開館は令和5年1月26日を目指して整備を進めている。

現在の工事の進捗は約70%の出来高で順調に進んでいる。昨日までだと、外部は1階エントランス、1階2階の商業施設の外壁のタイル張りを行っている。3階には新しくテラスを設けるが、天井の木の部分の工事がほぼ完成している。4階は雨漏りがないよう複合の防水を完了している。また、2階まで足場の解体が進んでいる。駅前に行くとなんとなく1階と2階の様子がわかる。4月からは、内部の天井ルーバーの施工、1階から3階への石膏ボードの施工、各階内部の仕上げを進め、5月のゴールデンウィーク後には足場が全て取られ、

内装を残すのみの予定となっている。今後は、機会があれば工事や内装の様子を写真などでお示していきたい。

【会長】 いよいよ内装となると、新築の家と同じで予想図に近づいていく。図書館とは離れてしまうが商業施設の方はどのような感じか。

【事務局】 オーナーは決まっているが、また決定には至っていないとのことである。組合側も夏をめどにと考えているようだ。直接関係はないが、隣の施設であり、相乗効果も図れるので、目玉にしたいと思っている。

【会長】 その他の報告事項はあるか。

【事務局】 引き続き、予算の説明をさせていただく。予算書の一部抜粋をご覧いただきたい。主なものについて説明させていただく。現在の図書館と駅前に移転後の新図書館の予算に分かれている。現在館については、施設の維持管理費や会計年度任用職員の方々への報酬等が主なものである。新館に関しては、新たに導入する IC タグ貼付やそれに伴う機器類の調達、引越作業や管理運営委託のほか、備品・什器関係の購入費などである。ただ図書館として気になるのが図書資料費についてである。今年度の図書資料費については、500万円をお預かりしている。例年であれば700万円であったが、新図書館に増額いただきたいとの思いのもと、新年度予算では1,000万円の購入費をお認めいただいている。このほか、電子図書館の導入を進める予定であり、蔵書計画に基づいて図書資料の選定・収集を進めていく。会計年度任用職員の任用については、10月末で任用終了する。11月からは新館の運営委託事業者が入って業務を進めていく。一人ひとり面談を重ねるなどして、引き続き丁寧な対応を行っていきたい。

【会長】 資料購入費については、新図書館開館に備えた蔵書補充購入費という考えでよいか。

【事務局】 一年間を通して1,000万円をお預かりする。現在の市立図書館は、8月末まで開館をするため、どうしても必要となるもの、課題図書や受賞作品などはその時期に備えておく必要がある。新館に向けてとなると、休館後の9月以降もその都度引き続き蔵書計画に基づき必要となる選書をしながら、新館に向けて装備をして配架していく。また、開館してからも年度末まで必要となる資料を揃える分も含めたものである。1冊が平均3,000円程度として計算した場合、3,000冊から3,500冊程度になると想定している。

【会長】 先日のフォーラムで中井先生が蔵書の新鮮度と言っておられたが、新図書館がオープンすると、どんな本があるだろうということが目立つと思われる。イベントなどもあるが、そこも大事ではないかと思う。県立図書館は、新聞にも掲載され、その後一部増額されたようだが、資料費は抑えられているのだということがよくわかった。

(2) 令和3年度の図書館利用状況と令和4年度活動予定について

【事務局】 昨年度の入館者数、貸出人数・冊数等の利用状況を報告。

昨年度より少し回復している。コロナ禍において、図書除菌機や空気清浄機

の設置、職員による可能な限りの拭き掃除やトイレの清掃などを実施していることにより、少しでも安心して利用していただけているのではないかと。市民からもそのような声をいただいている。

しかしながら、上半期は前年度を上回る利用があったが、下半期は前年度を下回る状況である。臨時休館などコロナの影響によるものが大きいとは思いますが、それだけではなく図書館を利用してもらうよう、工夫をした取り組みが必要ではないかと考えている。

平成17年度からの推移を見ていただくと、入館者数についても平成28年度をピークに横ばいではあるものの少しずつ減少してきており、来館を待っているだけではなく、地域へ出向き、読書活動を広める、図書館の便利さを広める活動が今後さらに必要であると感じるところである。

令和3年度のイベント参加人数について別表に示している。全てを合わせて1,000人近い利用があった。ただ、かなりの人数制限を行っての集計であり、コロナのきつい時は利用人数を10人まで、少し落ち着いてきても15人までと制限させてもらった。それでも1,000人近いイベント利用があったということは、大変ありがたいことだと感じている。

エントランスやミニコーナーについては、図書館司書を中心として月々テーマを変えて展示を実施している。ここ3年間は行政テーマ展示に力を入れている。行政の関係各課から申し出と図書館資料とのコラボによる展示で、オリンピックパラリンピックの展示や防災などがこれにあたる。少しずつ行政内部でも図書館で展示することの有効性を感じていただいております、普段図書館を利用しない職員もこういった機会を利用することで、案外図書館って使えるという思いを持ってもらっている。こういった取り組みを今後も進めて参りたい。

【会長】 学校からの見学も少なかった。学校自体も行事やイベントがかなり縮小されていた。そのような中で公共施設をオープンしていくにはかなりのリスクを伴う。本当にご苦労されていると思う。委員の皆さんの意見はどうか。

【田中委員】 いろいろ考え方はあり、賛否両論はあると思うが、子どもの発達等を考えると、イベント中止ではなく感染対策を取ってイベントをやっていく方がよいと思う。頑張ってもらいたいと思う。

【渡部委員】 テーマ展示を行うことで、普段読まなかった本や関心のなかったものに目を向けることができるので、いろいろな情報を展示していただくのはありがたい。

【会長】 このような状況で県立図書館でも同様だと思うが、悩んでいることなどがあれば教えてもらいたい。

【中川委員】 コロナ禍で制限があり、来館者が伸びないのも同じ状況である。県立としても有効な手を持っていないと感じており、試行錯誤を続けている状態であり、まだしばらくそういう状況が続くのではないかと。他の機関や市町の図書館の状況について、県立が集約して共有できるとよいとは思いますが、まだそこまで至っていないので、そこは県立図書館としての反省であると思っている。

【会長】 主催者としてリスクを伴うことで何かあってはいけないと思うし、田中委員がお

っしゃるように子どもたちの発達段階に応じた機会を奪うのもどうかと思う。両方がうまくバランスを取りながら進めていけることを皆が試行錯誤しながら2年以上を経て、若干先が見えてきた状況である。学校現場ではまだまだで、閉鎖など行っている。ずいぶん減ったが感染者は毎日出ている。難しいところである。

市立や県立図書館ではいろいろやっているが、学校現場ではかなり感染対策をされていて、読書活動を進めていると思うがどうか。

【川口委員】

いつになったら終わるのかという思いである。感染者が低年齢化してきており、小学校でも感染者が増えてきている。そのなかで子どもたちのストレスがたまってきていると感じる。奇声をあげたり、校舎内を走り回ったりすることも増えたと聞く。その中で、本を読む子も増えている印象がある。

市立図書館の休館まであとわずかであるが、展示が地味な場所にあるなど、わかりづらい。また、行政展示、子ども向け展示、一般向け展示とはっきりわかるような表示があるといいと思う。また、展示図書が貸し出されたあとは、テーマに沿った本の補充をしてもらえると嬉しい。一度展示をさせてもらったが、今後も、可能であれば授業内容とリンクさせて、学校で借りることができなかった本も、市立図書館に行けば借りることができるというような連携がとれるといいと思っている。

【事務局】

イベント一つひとつを開催するにあたり、ボランティアの方々と打ち合わせを行っている。ボランティアの方の中にはかなりコロナを警戒される方もいらっしゃる。イベントの内容についても、10名ないし15名という定員を設けつつも、どうしてもそのイベントに参加したいという利用者もみえる。そういった方を拒否するのではなく、寒い窓を大きく開ける、離れた場所から見えるようにするなど工夫をしながら、少しでも参加してもらいやすいように心配りをしている。

展示コーナーの写真以外にも、学校で書いてもらったPOPの展示や、その時期に応じた本、今の時期であればウクライナ関連の本をカウンター横の小さいスペースではあるが展示している。展示可能なエリアが限られているので大々的にはできないが、少しでもスペースのあるところへ匂なものを置かせていただくことを心掛けている。

新図書館に向けては、かなりスペースをいただくことになるので、しっかりと企画をしていきたいと思っているし、今まで以上に小中学校図書館とのコラボ、また高校図書館とのコラボをしていく必要があると考えている。

【会長】

学校図書館も、司書と図書委員の子どもたちで展示を変えたりして少し手を加えると利用が変わる。店舗の展示と同じで、品物は同じであるが場所を入れ替えると目に入るロケーションが変わる。これが大事である。本の場合は背表紙しか見えないので、面出しをし、POPを付けたりすることで大きく変わる。素晴らしい展示をしていただいているので、今後もよろしくお願ひしたい。

【事務局】

来年度の展示予定をお示ししている。来年度8月末をもって休館することから、それまでの5回について、場所を分けて展示を予定している。カウンターの

調整中については、今後のトピック的なものを催したいと考えている。

その他として、現行図書館が休館となることから、リクエストや予約サービスについて、希望はお預かりをするが、利用状況によっては提供が開館後になるとの周知をさせていただく予定である。相互貸借についてもしばらくは我慢していただくことになる。新館開館後に改めて再開させてもらう。県立図書館の e-Booking や直接返却のサービスについては、県立図書館と調整した上で、ホームページ等で周知を行っていく。

【川口委員】

もうお願いはしてあるが、小中の授業関連の団体貸出については、5月から6月までに申し出をすればできる限り対応いただくとのことであるので、そういうサービスは継続してもらっているということをお伝えする。また、展示予定の課題図書について、いつ来ても貸出中ばかりなので、課題図書と一緒に読書感想文に向けた本としてもらったなら協力させてもらえる。授業で、読書感想文に向けた本が図書館に行ったらあると伝えるので、課題図書に限定しない展示をしてもらえたらと思う。

【事務局】

担当者調整中のところがある。テーマはこちらに示したものであるが、少し幅を広げた配架等を検討していきたい。

(3) 亀山市子どもの読書活動推進計画について

【事務局】

委員の皆さんには短時間で内容をご確認いただき、ご意見をいただくことになったが、多くの意見をいただいたことにまずお礼を申し上げる。

運営委員、整備推進委員会委員、関係各課からの意見に対し、別紙のまとめのとおり、ご指摘いただいた部分や内容に疑問があるとされた事項に対し、説明不足の部分や最新情報の追記、用語の統一を行い、それぞれ追記・修正を行っている。お手元の形で先日の教育委員会に提案し、議決をいただいた。見やすくするために、文字のフォント数を上げた関係で、ページのズレなどが生じており、最終的な字句修正などが必要な部分があるため、修正し策定させていただく。

【会長】

目を通していただいて、ご意見をお願いしたい。

【田中委員】

なかなかビブリオバトルは実行できない。

【事務局】

新図書館に向けては、期待できるのではないかと考えている。例えば、ボランティアさんと亀山高校の生徒さんとのコラボをしながら、開催することができるのではないかと考えている。

【田中委員】

コロナ下においてクラスターなど邪魔をするかもわからないが、コストコやリニアで亀山が話題になっている。話題になり、有名になっている時だからこそ、感染対策をしっかりとって行事を行うべきではないか。大変ではあると思うが、期待している。

先ほど、新図書館の資料購入費の話があったが、学校司書さんが入るまでの間に学校でボランティアをしていた時の体験がある。いくら大人がいい本があると云っても子どもたちは古い本には手を出さず、新刊コーナーしか見なかった。一時的に別置したとしてもその時は手にするが、棚に戻ると見向きもしな

い。新しい本はみんなが競って借りる。まんがや人気のあるものはそればかり借りてボロボロになってしまう。

新しい図書館になると、今まで新刊コーナーや展示をした本しか借りなかった子どもたちが、最初からたくさん新しい本が棚に入っていることで、散らばって今まで借りなかったコーナーに行くのではないかと期待している。新しい本はどんどん買ってもらいたい。

【委員長】

スタートが大事である。

【田中委員】

図書館が新しくなると、行かなかった子も行ってみるかもしれない。大人も一緒だと思うので、期待している。

【事務局】

コロナ禍の中でイベントのあり方について、三重県のイベントのあり方を参考に開催している。施設の構造上、妥当なところとして実施しているのが現状である。感染予防をするためには、窓を開けるということはもちろんであるが、トイレの方がよりリスクが高いのではないかと考えている。朝とお昼にはトイレの清拭としてアルコール消毒をし、開架閲覧席も長く滞在される方が多いので、お昼休みを中心に空いた時に必ず拭き掃除を徹底している。イベントだけというよりも、普段から図書館をかなり利用してもらっているの、そういったところに注意をしていきたいと思っている。中にはマスクを取っている方もいるので、ご協力くださいとの声掛けをしている例もある。

本を配架する件については、毎週土曜日朝9時に新着本を配架する形をとっている。それを目掛けて来館される大人の方がいるのは確かである。ただその場所だけでなく、いろいろな場所に赴いていただき、いろいろな分野の資料を見ていただくことは、知的好奇心の面でもよいことだと思っているので、そういった仕掛けを新図書館では考えていきたい。配架に関しては、児童の読み物が出版社別に配架しているのが扱いつらいと学校図書館からもご意見をいただいているが、図書館でもそのように感じており、大人向けの図書と同様に著者順に改めるなど、さらに本を手にとってもらいやすいようにしたいと思っている。本については、会長のご発言にもあったが、背だけで並んでいると本のイメージがわからないが、表紙を出すことによって手に取ってもらいやすいということもあり、現行の図書館のようにぎゅうぎゅう詰めではなく、かなりゆったりとした配架にしたいと考えている。一見すると本が減ったように見えるかもしれないが、より本を手にとってもらいやすい工夫をしていきたいと考えている。

【会長】

先ほどのマスクの話もあったが、なかなか注意することが難しい。カスハラにつながる。職員の連携と対応の研修を積まないといけない。電話対応もしかりである。マスクを絶対にしない等の意固地な自己主張の強い人がいた場合、他の人では注意できない。職員が間に入って適切に対応するなり、別室にお連れして話をする、最悪は病院に書いてあるように迷惑行為があったら警察を呼ぶという張り紙をするなどが必要になってくる。新図書館になって階が増えることで、見えないところで嫌な思いをされる方がいたりすると思われる。悩みは増えるかと思う。

【会長】 直接図書館とは関係しないが、亀山っ子市民宣言について確認したいがよい  
か。

【事務局】 平成20年6月に策定されており、宣言の下部に亀山市、亀山市教育委員会、  
亀山市青少年育成市民会議とあるように、行政・教育委員会・市民が共同で  
宣言している。コロナの関係で策定が遅れているが市の総合計画後期基本  
計画、これに合わせて学校教育ビジョンや生涯学習計画が3月の教育委員会  
で議決を得られたが、他市には類を見ない市民の方を含めた宣言であり、こ  
の取り組みは大事にしていきたいと思っている。ただ、押し付けにならないよ  
うな形でということ、子どもはこうあらねばならないということではなく、あくまで  
大人の行動指針になるようなもので、子どもたちを育てるように大人がきちん  
と見本を示すという取り組みをさせてもらっている。これについても、青少年育  
成市民会議において第4次具現化計画というものを策定して取り組みを進め  
ている。学校等を通じて啓発していくような形になると思う。このような組み  
組を通じて、亀山の子どもはきちんと挨拶をするということがある。行政が率先  
してという訳ではなく、市民と協働して取り組んでいく内容であり、引き続き継続  
して取り組んでいく。じわりじわりとではないが、一気に成果が出るというもの  
ではない。取り組みの仕方としては、いろいろな家庭環境のお子さんがみえる  
ので、一律にこうだというのではなく、配慮が必要であると考えている。

【会長】 よいことではあるが、それぞれの家庭の状況があるから難しい部分もある。押  
し付けられてもという家庭はあるかもしれない。また、すでに行っているのにと  
まだ言われるのかという家庭もある。

【事務局】 やはりコロナ禍の中で、生活のリズムが崩れたりするという中で、教育長がよく  
言われることであるが、家庭の教育の部分で支援が必要ではないか。PTAの  
活動とかご尽力いただいているが、社会が変わっていく中で、弱くなっている  
部分がある。行政があれこれ指示をするわけではないが、家庭や地域と連携  
して教育を進めていくことが重要なことであり、学校教育ビジョンや生涯学習  
計画の中でもその取り組みは位置づけているものである。

【会長】 新聞で見たが、PTAの中の役職の呼称で、母親代表というのがある。共働きの  
この時代にこの役職や呼称はどうかとの声があり廃止すると名古屋市の  
事例が紹介されていた。この場とは違うが、時代にそぐわない組織図や名称な  
ど、家庭の状況や保護者のあり方の認識が変わってきている。若い人はそれ  
が徐々に変わってきているようである。

余談が長くなったが、今後も議論を深めながら業務を行っていただきたい。

### 3 その他

【事務局】 今年度は2回開催したが、来年度は8月までに、休館にあたって1回開催させ  
ていただきたいと思っている。7月上旬をめどにお集まりいただきたいと思っ  
ている。引き続きよろしく願いしたい。

【田中委員】 市立図書館と中学校との相互貸借があることを知った。読みたい本が図書館  
にはなかったが、学校にはあった。学校から借りられるのはよいが、子どもの本

を読む機会を奪ってしまうようで後ろめたい気になる。学校からの相互貸借は控えてもらったかどうか。

【事務局】

3中学校と市立図書館では相互貸借制度を設けている。ゆくゆくは、小学校でもという話がある中で、まず中学校とのやり取りを行っている。冊数や規模が違うことから主に図書館から中学校へお貸しすることを想定している。新図書館以降では小学校へも展開するかどうか検討している。現在は小学校については、6つの小規模校に対し各校 60 冊ずつ、合計 360 冊の本を「さわやか文庫」と名付けていただいて巡回している。先ほどの会長の発言にもあったが、いつもの本だけではなくちょっと目新しいものを、学校司書さんを中心に POP を作ってもらうことにより、子どもたちに読書活動を提供しようという取り組みを行っている。

【川口委員】

今年度、図書購入予算で、百科事典ポプラディアノ改訂版をすべての学校が購入したため、いつもの年に比べて他の本を買う予算がとれなかった。そのための対策として行った取組みであるが、特に小規模校では図書購入予算に限りがあり、それをカバーできる方法の一つとして、とても良かったと思う。これからも続けていただきたい。

また、先ほどビブリオバトルの話があったが、小5と中2で国語の教科書にも出てくる。「本を通して人を知る、人を通して本を知る」というねらいどおりに、生徒達は友だちが好きな本を知ることができる。亀山市でも、ビブリオバトルのイベントを中高生対象に行うことも可能だと思う。コロナ渦でもオンラインやハイブリッド方式などを採用して、運営面で工夫できればと思う。

中高生の読書量が課題だと考えるが、新刊を並べるだけでなく、司書や職員が紹介したり、活用の方法を提示したりすることが大事になってくる。ぜひ、図書館主催で、ボランティアの方にもお手伝い願うというイベントも実施してもらいたい。せっかくの図書館職員の皆さんの力を活かすことができるように、主体的に活動してほしいと思う。

【事務局】

平成25年の図書館がリニューアルする前は、職員がいろいろな企画を実施していたが、リニューアルにより会場が学習室となったことから、そのあたりから図書館職員のノウハウが薄れてきたのかもしれない。先にお示ししたイベントの参加人数をご覧いただいてもわかるのが、図書館職員によるミニ講座を今年度3回実施したが、実績はゼロであった。いかに図書館職員がPR下手かということが浮き彫りになったと反省しているところである。新図書館では運営業務を委託する中で、委託職員については貸出返却等の基本的な部分を担ってもらい、図書館司書を含む正規職員は図書館の企画やアウトリーチを中心に今後行っていく予定であるので、さらに学校図書館に協力いただきながら企画を実施していきたいと考えている。

【会長】

コロナが早く収まって、図書館活動をのびのびと行える日がくることを望んでいる。